

果樹の生育状況と当面の技術対策について

I 気象（三戸アメダス、6月）

6月前半は気温が低く、降水量が70.5mm（平年比182%）と多く、日照時間が72.8hr（同86%）でやや短かった。6月後半は気温が高く、降水量が40.0mm（同66%）と少なく、日照時間が89.1hr（同125%）と長かった。

II 生育状況

1 りんご

4月の降霜や開花期間中の強風により、園地によっては中心果の結実が少なかったり障害果（奇形やつるの短い果実）がみられるが、着果量は確保されている。

7月1日時点の果実肥大は各品種とも平年を上回っており、「ふじ」では三戸が平年比113%、八戸が同115%であった。

表1 りんごの果実肥大（単位：cm、%）

地点	品種	年	6/1	6/11	6/21	7/1	7/11
三戸町 梅内	ふじ	本年	2.2	2.9	3.7	4.4	
		平年	1.5	2.4	3.3	3.9	4.6
		前年	2.1	3.0	3.7	4.4	5.1
		平年比	147	121	112	113	
	つがる	本年	2.6	3.5	4.6	5.5	
		平年	1.7	2.8	3.7	4.5	5.4
		前年	2.5	3.6	4.6	5.6	6.6
		平年比	153	125	124	122	
	ジョナ ゴールド	本年	2.7	3.4	4.3	5.1	
		平年	1.7	2.7	3.6	4.4	5.2
		前年	2.4	3.3	4.3	5.1	5.8
		平年比	159	126	119	116	
八戸市 櫛引	ふじ	本年	2.3	3.0	3.8	4.5	
		平年	1.5	2.3	3.2	3.9	4.5
		前年	1.9	2.8	3.6	4.3	5.0
		平年比	153	130	119	115	

平年値：平成13年～令和2年までの平均

2 おうとう

「佐藤錦」の着色日は平年より5日早い6月5日、収穫始めは1日早い6月20

日であった（南部町高瀬）。5月末～6月上旬の降雨等により、裂果がみられる。

3 もも

結実量は確保されている。せん孔細菌病の春型病斑が散見される。

4 西洋なし

結実は園地によりバラツキがみられるが、概ね確保されている。

5 すもも

結実は園地によりバラツキがみられるが、概ね確保されている。

6 ぶどう

ハウス栽培の「キャンベル・アーリー」の落花日は、平年より1日早かった。露地栽培の「キャンベル・アーリー」の落花日は、平年より6日早かった。

表2 ぶどうの生育ステージ

調査地点	品種名	区分	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
三戸町 梅内	キャンベル ・アーリー (ハウス)	本年	4/ 5 (+1)	4/18 (+3)	5/12 (-2)	5/14 (-2)	5/19 (-1)
		平年	4/ 4	4/15	5/14	5/16	5/20
		前年	4/ 2	4/16	5/12	5/14	5/19
	キャンベル ・アーリー (露地)	本年	4/21 (-4)	4/30 (-7)	6/6 (-7)	6/11 (-5)	6/14 (-6)
		平年	4/25	5/7	6/13	6/16	6/20
		前年	4/17	5/2	6/9	6/13	6/18

※平年値：2002年～2021年の20年間の平均

Ⅲ 今後の対策・指導等

りんご、もも、西洋なし、すももでは、果実の肥大促進と充実した花芽形成のため、仕上げ摘果をできるだけ早く終わらせる。

病虫害の発生は少ないが、6月は多雨や高温など天候の変化が大きかったことから、油断せずに防除を継続する。

1 りんご

(1) 摘果

結実量は確保されているので、仕上げ摘果は果実の形質を見極めてできるだけ早く終了する。中心果が欠落したり形が悪い場合は、側果の中から形質の良いものを残す。仕上げ摘果が終了した後も見直し摘果を行い適正な着果量とする。

表3：品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果

(2) 病害虫防除

ア 腐らん病対策

例年より発生が多い。枝腐らんは6月以降も発病するので、見つけ次第、切り取り処分する。胴腐らんは泥巻き法や削り取り法により適切に処置する。

イ 黒星病対策

発生は少ない。発病葉や発病果は、感染源となるので見つけ次第、摘み取って土中に埋めるなどして処分する。薬剤散布は適期適量散布を守り、散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前散布に徹する。

ウ ハダニ類対策

園地によって、ナミハダニやリンゴハダニの発生がみられる。予察を行い、ハダニ類の発生がみられる場合は防除剤を散布する。

エ カメムシ類対策

発生が目立つ園地では、薬剤散布の際にカメムシ類に効果のある殺虫剤を選択する。

2 おうとう

6月後半が高温で経過しているので、収穫は果実の熟度を確認し、遅れないように行う。裂果や果実の腐敗がみられているので、早めにつみとって処分する。

3 もも

「川中島白桃」の硬核期は、南部町相内では7月14日頃までと見込まれる。硬核期間中は摘果や夏季剪定を控え、見直し摘果は硬核期終了後に行う。

6～8月に新梢に発生するせん孔細菌病の夏型枝病斑は、速やかに枝ごと切り取って処分する。

4 西洋なし

仕上げ摘果の作業を急ぎ早めに終える。

なお、結実が少ない場合は、多少障害があっても残し、適正着果量を確保する。

5 すもも

結実量が多い園地では、摘果を行い大玉生産に努める。仕上げ摘果の目安は、「大石早生」では、着果間隔で8～10 cmに1果、「サマーエンジェル」、「紅香のしずく」、「ソルダム」、「秋姫」では10～12 cmに1果を残す。

6 ぶどう

露地栽培の「キャンベル・アーリー」は、生育が早まっているので、薬剤散布は遅れないように実施する。2回目の摘心時期は副梢の展葉枚数が8～9枚になった頃で、1回目の摘心後伸びた副梢を5～6枚残して摘心する。以降も副々梢が伸びる場合は3～5葉で摘心を行う。